

2024 年 アジアー米国間コンテナ貨物輸送量は増加傾向 ～アジアー米国間コンテナ貨物輸送動向分析を実施～

- アジアー米国間コンテナ貨物輸送量は、地政学リスクや関税引き上げといったサプライチェーンリスクへの懸念により前倒し出荷が加速し、全体的に増加傾向。
- 日本ー米国間の米国東西岸別コンテナ貨物輸送シェアは、米国東岸ストライキ等が影響する可能性があったが大幅な変化無し。
- 日本ー米国間のトランシップ経路別コンテナ貨物輸送量は、日本ー米国東岸直行航路の前年開設による日本から米国東岸向けの直行輸出貨物量増加傾向が継続。

●背景

国土技術政策総合研究所では、「国際コンテナ戦略港湾政策」の推進を支援するため、機動的な政策立案・評価を行うための国際コンテナ物流に関するデータ収集・分析機能の強化に取り組んでおり、2024 年 1 月に、アジアー米国間コンテナ貨物流動分析に関する HP を開設しました。

この度、HP に 2024 年の最新データを追加し、近年のアジアー米国間コンテナ貨物輸送動向の分析結果を掲載しましたので、お知らせします。

●主なデータ内容

アジア⇄米国間のコンテナ貨物輸送量（国別）
日本⇄米国間のコンテナ貨物輸送量（米国側発着地域別）
日本⇄米国間のコンテナ貨物輸送量（トランシップ経路別）

●掲載先

下記リンクからデータ及び分析結果を閲覧することができます。

<https://www.ysk.nilim.go.jp/kakubu/kouwan/keikaku/container/top.html>

（問い合わせ先）

国土技術政策総合研究所 港湾・沿岸海洋研究部

港湾計画研究室 佐々木、山本 TEL：046-844-5027